

尋常  
小學  
作文

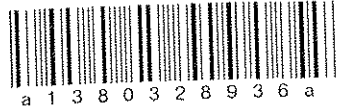
西村正三郎 合著  
杉山文悟  
漢字交り文(第四年級)

第四

改三指の号ノ七

一四六ノ六

T1A3  
11  
N 84



福岡教育大学蔵書

小學常  
作文卷四

○第一步

教授法 此ノ歩ハ文題ヲ與ヘ且必要ナル句及ビ文字ヲ示シ以テ文章ヲ作ラシムルニアリ。

第一例ノ教授法ハ第三卷第三步ノ教授法ニ異ナルナキヲ以テ今之ヲ略ス。

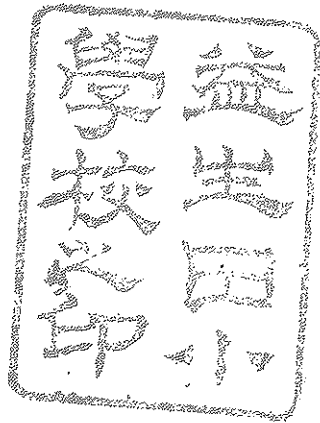
第二例ノ文字ヲ與ヘテ文章ヲ綴ラシムルニハ先ヅ通常ノ法ノ如ク題意ヲ口授シテ次ニ用フベキ文字ヲ示スモノトス。然レドモ時ニハ生徒ノ問ヒタル文字ノ外之ヲ示サミルモ可ナリ。要スルニ適宜ニ其教授ヲ變換

田中登作 閱

西村正三郎

杉山文悟

合著



尋常

作文

一

教育書

シテ生徒ノ倦厭ヲ來サミルコトヲ務ム可シ。

第一

例

○鷺

鷺ハ鶴ニ似テ稍小シ。其色白シ。頭ニ毛冠アリ。魚又ハ蟲ヲ捕ス。食トナス。常ニ水邊ニ棲ム。

鷺ハ鶴ニ似て小く、其色白くして、頭ニ毛冠あり。常ニ水邊ニ棲み、魚又ハ蟲を捕つて、食とナス。

○梅

梅ハ、其香高シ、最人ノ愛スル花ナリ。紅白ノ二種アリ。初夏ニ至リテ實ヲ結ブ。春花ヲ着ク。鹽漬トシテ食用ニ供ス。

梅ハ、其香高く、最人の愛する花にして、紅白

の二種あり。春花を着け、初夏に至りて實を結ぶ。鹽漬として食用ふ供ふべし。

類題

○雁

雁ハ水鳥ナリ、水邊ニ集ル、魚類ヲ捕ヘテ食トナス、秋ハ北ヨリ來ル、春ハ南ニ歸ル、其肉ハ食用ニ供フベシ、

○林檎

林檎ハ其花白クシテ、淡紅ヲ帶ベリ、二三月頃花ヲ着ク、七八月ノ頃實ヲ結ブ、其形大小種々アリ、味甚甘シ、

○寒暖計

細キ硝子管ニ水銀ヲ充テ、作ル、管ニ度盛ヲ附ス、水銀ノ昇降ニヨリテ、寒暖ノ度ヲ量ル、通常ノ寒暖計ハ二百十二度ヲ沸騰點トス、三十二度ヲ氷點トス、

○蟬

蟬ハ土中ヨリ出ヅ 皮ヲ脱シ羽ヲ生ジテ  
飛ブ 炎熱ノ候ニ至リ、樹間ニ鳴ク、其種  
類多シ、各名ヲ異ニス、秋ニ至レバ死ス、

○蝶

蝶ハ毛蟲ノ化スルモノナリ、其種類甚多  
シ、春ヨリ夏ニ至リテ多ク出ヅ、皆美麗  
ナル羽ヲ具ス、花片ノ中ヨリ其汁ヲ吸ス、

○年魚

年魚ハ香魚トモ云フ、一種ノ香氣アリ、  
清キ河水ニ棲ム、鈎ニテツリ、或ハ鶉ヲ放  
チテ捕ヘシム、味甚美ナリ、煮又ハ炙リ  
テ食フ、

○梟

梟ハ鷹ニ類スル鳥ナリ、夜出デ、小鳥ヲ  
捕ヘ食フ、晝ハ匿レテ出デズ、目ハ大ニ

シテ圓シ、眼ノ力鋭クシテ、晝ハ物ヲ見ル  
コト能ハズ、羽毛鳶色ニシテ、柔ナリ、夜  
更ケテ鳴ク、

○鳩

鳩ハ種類多シ、人家ニ飼フモノヲ鴿ト云  
ス、山林ニ棲メルモノヲ雉鳩ト云ス、春  
秋毎ニ卵ヲ産ス、其雛ヲ孵化ス、智慧多  
キ鳥ナリ、馴ラストキハ、書信ヲ運ブノ用

ヲ為ス、

○虹

虹ハ、太陽ノ光線、空中ノ水氣ニ映シテ生ズ、  
雨後ニ現ハル、太陽西ニ在レバ、東ニ現  
ハル、太陽東ニ在レバ、西ニ生ズ、其色七  
色ナリ、赤、青、黄、紫、紺、綠、紺、

○雨

雨ハ地上ヨリ蒸騰シタル水氣ノ寒冷ニ遇

フテ生ズルモノナリ、水滴トナリテ、地上ニ降ル。夏ハ雨多シ、冬ハ雨少シ、六月頃ハ雨最多シ、コレヲ梅雨ト云フ。

第二

例

○鯉

池川、住形、鮒似、大、其色多、青、黒、緋、白、人畜食用。

供味殊佳

鯉ハ池又ハ川ニ住む。其形鮒ニ似テ、大なり。色多くハ青、黒、あせども、或ハ緋、白のものも有る。人ハこれを畜ひて、食用ニ供す。味殊ニ佳なり。

○櫻

我國第一名花、山櫻、八重櫻、彼岸櫻、等種類、花、美麗、香、木材

諸種 器具

櫻ノ花ハ我國第一ノ名花ニシテ、山櫻ハ重  
櫻、彼岸櫻等ノ種類アリ。其花美麗ニシテ、香  
アリ。其木材ハ諸種ノ器具ヲ作ルニ用フ。

類題

○鮒

形狀、鯉、似、小、池沼、又、川、産、  
色、概、青黒、捕、食用、

○海棠

林檎、似、喬木、春、開、花園、植、淡  
紅、美麗、

○砂糖

甘蔗、製、黒、白、種類、味、食物、鉄、  
調理、煎、

○熊

猛獸、深山、棲、全身、性質、穴、毛皮、



小 學 作 文 第 四 卷 第 十 四 頁  
膽、藥材、

○鯨

海中、北海、身長、背、腹、哺乳獸、

○農具

鋤、鍬、耕作、總名、人民、慣用、適、水、土、便利、

○少年

精神、滿、氣力、壯、才能、勉學、有用、

徒、消費、

○第二步

教授法 此ノ歩ハ復文法ニヨリテ、文章ヲ學バシムル

ニアリ。故ニ其教授法ハ第三卷第四歩ト略相同ジ。

第一例ハ通常ノ假名ニテ記セル文章ヲ漢字交リ文ニ改作セシムルニアリ。故ニ或ハ此ノ假名文中文字及ビ

句ヲ省キテ之ヲ生徒ニ填充セシム、或ハ故ラニ主格及ビ假名遣ヒヲ轉倒シテ之ヲ生徒ニ修正セシムベシ。

第二例ハ談話體ノ假名文ヲ漢字交リ文ニ改メシムルノ法ニシテ、其教授法ハ第一例ト異ナルコトナシ。

第三例ハ和文ニ近キ文章ヲ與ヘテ之ヲ讀ミ易キ漢字

交リ文ニ改作セシムルニアリ。或ハ讀本中ヨリ此ノ種  
ノ文章ヲ擇ミテ綴ラシムルモ可ナリ。

第一

例

○獨樂

コマハモクドウニテツノヂクラツラヌキテ  
ツクル。アルヒハドウニテツノワヲハメタル  
モノアリ。ミナコドモノモテアソビダウダナ  
リ。

獨樂ハ木胴ニ鐵ノ軸ヲ貫キテ造ル。或ハ胴  
ニ鐵輪ヲ嵌メタルモノアリ。皆子供ノ玩具  
ナリ。

○鯰

なまづハかはみづうもぬまいけおどふまよ  
うむ。くちあよびのーらともよをいあり。な  
がきひげありてうるこあー。まよくようそー  
てあちはひまあはまよし。

鯰ハ、河湖沼池等小生ず。口及び頭共大なり。長き鬚ありて、鱗無し。食用として、味甚佳あり。

類題

○羊

シツジハ、ソノカタチ、イヌヨリオホイニシテ、イロシロシ。コノミテカミヲクラフ。ケハハサミトリテ、ラシヤヲオルベク、ニクハシヨクヨサトナ

スベシ。

○鹽

志ほのつくりかたハ、さあぐあせども、たやくハ、かいすいをにて、せいせ。やま志ほとと、やまより、ほりいだはも、結あり。志よくもつ、のり、よ、うり、みちちある志なり。て、いちにちも、く、く、さ、ざるものあり。

○朋友

はういひ、まいふち、ともじんき、やういとも  
 よあそびもつとも、たきものなれば、たの  
 て、あそびいあどをなさだ、たがひふあ、みま  
 ドもりて、まよよきひととを、んことをねが  
 うべし。

○磁石

ジシヤクニハ、ソノツクリカタ、シユジユアリ。サ  
 レド、ミナジキヲモチタル、カウテツノハリヲ、マ

ツスグニタテタル、ホソキハリノウヘニオキテ、  
 ジユウニクワイテンセシムルモノナリ。ソノカ  
 ウテツノハリハ、ツネニキタヲサシテ、ホウキヲ  
 シルコトヲ、ウルナリ。

○銃砲

ジウホウハ、テツヲモツテツクル。ソノカタチ、シ  
 ュジユアリ。クワヤクヲイレテ、ダングワンヲ、ハ  
 ナツキカイニテ、センソウニモチフルモノナリ。

○船

フネニハ、ジヨウキセン、ホマイセン、ナド、シユエジ  
 ユアリ。ソノカタチ、ダイナルモノ、シヨウナルモ  
 ノアリ。ウミカハヲワタルニハ、カナラズ、フネニ  
 ノラザルヲエズ。ユエニフネハ、ソノヨウモツト  
 モオホイナリ。

第二

例

○文章

ブンシヤウハ、オノオノノヒトガ、ジブンノカ  
 ンガヘヲ、カキアラハスモノデアリマスレバ、  
 ヨミヤスクシテ、ヨクワケノワカルヲ、ヨキブン  
 シヤウトイタシマス。ミダリニ、カザリノミオ  
 ホクシテ、シユエイノワカリガタキハ、ブンシヤ  
 ウヲマナブヒトノ、サケナケレバ、ナラスコト  
 デアリマス。

文章ハ各自ノ思想ヲ書キ表ハスモノナレ  
バ、平易ニシテ、能ク意義ノ通ズルヲ善キ文  
章ト為ス。徒ニ文飾ノミ多クシテ、其主意明  
ナラザルハ、文章ヲ學ブ人ノ避クベキコト  
ナリ。

○孝行

あつちをうやまひてよくそのいひつけを  
まもるハ、かうありたひとつであります。ひと

いへいせいこのあつちをこつちるふとめれきて  
うへときもとめれといありませぬ。

父母を敬愛し、其命を守るハ、孝行の一あり。  
人の常ふあつちを心よ留めて、片時も忘るべ  
からぬ。

類題

○吾ガ家

ワタクシハ、スマヒテ、オルイヘハ、ガクカ、ウカテ

ニジツテウホドハナレテ、オリマス。ソノウシロ  
ニ、ハヤシガアリマシテ、マヘニハ、チイサキカハ  
ガアリマス。マハリノトチハ、タヒラデアリマ  
シテ、ムギコメノルキヲツクルニ、ヨキトチデ  
アリマス。

### ○鳥の智

あるそりが、とくりのなるは、みづをのまんと  
えたるおくちを、とちかくして、のむおと

が、できませぬ。よりて、とりの、おやくのこい、を  
ひろいて、とくりふい、さま、たゆま、みづが、とく  
りのくちのと、おろふ、でて、まよ、とりの、お  
ほい、およろこび、て、おは、みづを、のむ、たと、まを  
します。

### ○紅葦

あまのひ、ひとり、のこども、お、あま、よ、いり、て、たく  
さん、べに、たけを、とり、い、よ、か、へり、て、お、お、み

せました。ちくのまをたよ、あまのいづくがありて、  
たべられませぬ。まふて、たもてはきれいなもの  
の、よくひとを、あまむくものであります。ゆゑよ  
れまへも、ういづをうつくしくせずして、あま  
をうつくしくせぬがならぬとれへやう。

○石炭

せれたんへ、たほむう、ちぢようふまようどた  
るそりもくのくわして、まふとありたるもので

あります。されどいま、ちのまこのまのまを  
るふ、ありませゆゑ、こまをとるふ、あまをうづ  
ちて、ほりいだします。これをたげびひのちから  
はなもどつよまゆゑ、いろくのせいぞろいによ  
よて、おやくもちひます。

○鮭

さけは、かは、まようぢうをで、ありませ。あま  
は、こる、いかみよのぼり、たまごをのあして、う



みよくだりやまを。おほんよそい、ほくこいだりの  
うむくふたやくまよりトまた。

○早起

いちふち法一ごとい、あさもやくまあひまはつ  
いよりまつうれてできませぬ。ゆゑよ、あさはや  
くたきて、まごとふうくらねばなりませぬ。あさ  
もやくたきさるいむづかしたやうあれども、一ど  
二どあつるまるときい、たがちふそのしゆうく

わんをつくりて、たやまくたきらまします。

第三

例

○猿と蟹

昔ある谷川のほとりよ住む蟹阿りて、一っ  
の握飯を持ちちうりらるが、爰よ又おの蟹  
と互よ往きこふ山猿阿りけり。梯の核  
一っ拾ひたりーが、いので蟹は持ちちた、

りる握飯と云ふ人も此と蟹の方へおと  
づれ、交易の事を説き勧めしむ、蟹ハ永遠  
の利を思ひて、異議あく、こを替へてけ  
り。

昔或谷川ノ邊ニ住ム蟹アリテ、一個ノ握飯  
ヲ持チタリ。爰ニ又此ノ蟹ト互ニ交際スル  
山猿アリテ、柿ノ核ヲ一個拾ヒタレバ、蟹ノ  
握飯ト交換セント欲シ、蟹ノ處ヲ訪フテ、交

易ノ事ヲ勸メタレバ、蟹ハ永遠ノ利ヲ思ヒ、  
異議ナク、之ヲ交換セリ。

類題

○仁徳天皇

仁徳天皇ハ、民間のよづし死おやをねほし  
て、三年の御調をとらめられぬ。その死ち高  
殿ふ昇りて見たまふ、民のみぎをしくみ  
にけるふよりて、高き屋よのぼりて見ま

烟たりの民のあまどひ、みぎをひより、とぞ  
よませらるるたりやぞ。

○獅子

獅子ハ、數多き獸の中よも、まゝと比ぶも死  
なき猛獸よぞある。その毛色ハ、黄褐よして、  
頭部ハ、いとあつた毛をもち、面貌極めて  
たけく、爪牙甚鋭くして、怒るときハ、一搏し  
て牛馬をえみドんふなまといへり。此の獸

ハ、亞非利加よ産し、土人もまゝ、其禍よ罹り  
て、死をうるものありとぞ

○猿と蟹

蟹ハ、柿の核を、日向よき地み栽ゑて、芽や出  
づると待ちしふ程あぐ既よ嫩芽をめぐみ  
たれば、蟹ハ深く喜び、疾く花咲けよか、實  
のまよありと、嫩芽の中より、思ひを凝らし  
て、丹精しむる程よ、年月早くも過ぎて、いつ

しつ實を結ぶ頃よなりみり。

○獵人

ある日獵人山よ入りしが日も暮れたまは  
とて大蛇のまみりる木とをあらで、それう  
つぼふよりふたりたり。蛇おの人をのまん  
とあり下り、まてよあやふく見はつるふ、獵  
人のともあひたる犬、早くもききり吠え叫  
びて主をたすけたりとが。

○平重盛

重盛ハ父清盛の無道を憂へ、涙を流して諫  
むるやう、そも我一門の斯くまで榮ゆるお  
やげよ君恩の厚きよぞゆる。假令如何な  
る事阿まはとて、猥お君上を怨と奉るべ  
きおとやある。重盛いので君臣の大義よ  
負きまうをべき、今ハ忠死をる能外ハ何  
らと。

○第三步

教授法此ノ歩ニ至リテハ生徒稍作文ニ熟シタルヲ以テ專文題ヲ與ヘテ自作ラシメントスルニアリ。然レドモ生徒猶文題ニ臨ミテ記述スベキ事柄ノ智識ニ乏キヲ以テ其要旨ヲ示シテ之ヲ綴ラシムベシ。

第一

例

○鐵

鍛ヘテ又物ト為スコト、 剪刀、砲丁、小刀等ヨリ、橋梁、船艦等ニ至ルマデ、皆鐵ヲ以

テ作ルコト、 其價金銀ノ如ク貴カラヌコト、 金屬中最要用ナルコト、

鐵ハ、最要用ある金屬ふいて、之を鍛へて又物及び其他の物を造るを得。剪刀、砲丁、小刀等より、橋梁、船艦等に至るまで、皆鐵を以て作るなり。されど其價ハ、金銀の如くよ貴のらず。

類題

○猪

猛キ獸ナルコト、尖キ牙ヲ具ヘ、怒ルルキハ、之ヲ以テ突クコト、睡眠ヲ好ミ、又蚊ヲ畏ル、コト、草ヲ聚メテ、卧床ヲ作ルコト、肉ノ食用トナルコト、

○羊

其形犬ヨリ少ク大ナルコト、毛ハ細クシテ白キコト、喜ミテ紙ヲ食フコト、毛ヲ

剪ミテ、羅紗ヲ織ルコト、肉ノ味ヨキコト、

○蓮

沼池等ニ生ズルコト、莖細長クシテ、葉ハ丸ク大ナルコト、花ハ、白若クハ淡紅ニシテ、美キコト、實ト根トハ、共ニ食用ニナルコト、

○葡萄

其莖蔓生ニシテ、地上ニ這ヒ、或ハ樹木ニ纏

フコト、小キ花ヲ着クルコト、紫葡萄、白葡萄、綠葡萄ノ種類アルコト、實ノ多ク集リテ房ヲナスコト、實ノ酸クシテ、甘キコト、

○啄木鳥

山林ニ棲ムコト、前指後指共ニ二本ニシテ、速ニ木ヲ上下スルコト、枯木中ニ生ズル蟲ヲ食フコト、常ニ木ノ幹ヲ穿ツヲ以

テ、啄木鳥ト云フコト、

○漆

其木甚大ナラザルコト、高サ一二丈ニ限ルコト、寒國ノ濕地ニ適スルコト、生木ノ皮ニ、鋸ニテ疵ヲ付クルコト、疵口ヨリ漆ノ汁ヲ出ダスコト、汁ヲ製シテ、漆器ヲ塗ルコト、

○昆布

海中ニ生ズル植物ナルコト、其色淡黄若クハ青黒ナルコト、津輕及ビ北海道ノ近海ニ、多ク産スルコト、食用トナルコト、

○枇杷

寒中白色ノ小花ヲ着クルコト、大ナル鋸齒葉ヲ有スルコト、秋ニ至リテ、實ヲ結ブコト、實ハ、肉小ニシテ、核大ナルコト、味甘美ナルコト、

第二

例

○遊歩場

其設ケ方、其設クル場所、何ノ為ニ設クルヤト云フコト、

遊歩場ニハ、草花樹木等ヲ植エタル處多シ。學校及ビ富有ナル人ノ邸中ニハ、必此ノ設アリ。學生ノ鬱憂ヲ散ジ、又ハ終日作業ヲ取



ル人ノ精神ヲ慰ムル為ニ、設ケタルモノナ  
リ。

○那須與市

其人ノ行ヒタル著キコトヲ記セ。

源義經平氏ノ軍ヲ屋島ニ攻ムルニ方リ、平  
氏ノ軍中ニテ、扇ヲ船頭ニアゲテ、之ヲ射ン  
コトヲ求ム。與市、義經ノ命ヲ受ケ、之ヲ射テ  
扇眼ヲ貫ク。扇風ニ飄リテ、海中ニ落ツ、誠ニ

奇觀ナリ。

類題

○和氣清麿

何時ノ人、其人ノ行、

○衣服

其種類ノ大略、健康ニ適スル物品、作業  
ニ便利ナル形狀、

○源為朝

誰ノ子、其人ノ行、才藝、

○雪

其降ル時節、何ヨリ生ズルカ、地上ニ積  
リタル有様、

○挑灯

骨及ビ其他ノ組ミ立テ方、用方、

○豊臣秀吉

何國ニ生レタル人、誰ノ子、死スルマデ

ノ行事、

○第四歩

教授法 第四歩ハ唯例題ヲ掲グルノミニテ、更ニ教授  
法ノ區別ヲ示サズ、是前教授法中適宜ノ方法ニヨリテ  
之ヲ授ケンコトヲ期スルナリ。且作文ヲ教フルニ當リ  
完全ナル文章ヲ示シテ、範ヲ之ニ取ラシムルハ必要ノ  
コトナレバ、例題ヲ示シテ、之ニ類似スル文ヲ作ラシム  
ルハ作文教授ノ捷徑ト云フベシ。

○蝙蝠

蝙蝠ハ鼠ニ似タル獸ニシテ、皮膚ヨリ成レ

ル翼ヲ具フ、常ニ明處ヲ避ケテ、廢屋、古木等ノ空穴ニ住ミ、晝ハ伏シテ出デズ。薄暮ニ至リ、空中ヲ飛翔シテ、小蟲ヲ捕ヘ食フ。

○檜

檜ハ、常緑樹ニシテ、高大ナル幹ヲ成シ、其材良質ニシテ、久ク腐朽セズ。故ニ家屋ヲ建築シ、諸般ノ器具ヲ作ルニ必要ナル木材ナリ。

○書物

書物ハ、事物の道理を記載し、或ハ善人其行為を録したるものあり。人々之みよりて、智識を開く處ニ是バ、幼年のときより、それ讀み、そのを習ひざる可からざる。

○椿

椿ハ、常緑樹ニシテ、多ク暖地ニ生ジ、初春ニ當リ、深紅或ハ白色ノ美花ヲ着ク。其材ハ堅久、實ヨリ油ヲシボリ取ルベシ。

○注意

明日行ふべし事ありば、必ず今日より其事を思ひ料りて定むべし。明朝使をつかへし、文を贈らんとおもふ、今日より書きとくの外て、使よ命をべし。(天和俗訓)

○猿

猿ハ山中ニ住免る獸にして、其種類多く容貌甚人に似たり。其大あつハ、殆ど犬の如く、

性伶俐にして、巧し人真似を為す。

○竹

竹ハ草類中別種ノモノニシテ、其類甚多シ。勁節直竿、中虚ニシテ直立ス。日用ノ器具ヲ製スル等、其効用最多シ。

○圖畫

圖畫ハ諸般ノ器械ヲ寫シ、草木禽獸等ヲ畫キ、又ハ精密ナル風景ヲ寫ス。其精巧ナルモ

ノハ、實ニ真物ト異ナラザルモノアリ。

○虎

虎ハ、頭圓クシテ、尾長ク、爪牙銳利ニシテ、眼  
銳シ、其毛ハ褐色ニシテ、黒斑アリ。性質勇猛  
ニシテ、常ニ肉食ヲナス。諸獸ノ最恐ル所  
ナリ。

○布

布トハ、木綿又ハ麻苧ヨテ織リタルものを

云ふ。平常人の用ふる衣服を製するに、缺く  
べしむる品なり。

○大豆

大豆は五月頃種をまき、九月頃に至りて、成  
熟す。煮或ハ炙りて食用とす。又ハ豆腐を  
製し、味噌を造り、肥料と用ふる等、其用種々  
あり。

○謙遜

小學作文 卷四 五十六 讀書及會  
學ぶ人の、唯我が智の暗く、我が徳の進まざる  
を憂ふべし。我も學問才智技藝ありとも、我を智とし、我が才を誇る心あるべからず。  
(天和俗訓)

○罌粟

罌粟ハ、五月頃美麗ナル花ヲ開ク。其色紅、白、紫、斑等アリテ、單瓣ナルアリ。重瓣ナルアリ。多ク庭園ニ植エテ、愛玩スルモノナリ。

○橙

橙ハ、其形頗柚子ニ類ス。初夏花ヲ開キ、秋實ヲ結ビ、冬ニ至リテ熟ス。其皮厚ク、肉ハ數個ニ分レ、各核子アリ。味酸クシテ食フベシ。

○攝生

飲食の度を慎みて、暴飲過食をなさざ、適宜の運動を為して、身を労働し、以て天賦の身

體を損せざるを攝生といふ云ふあり。

○衣服

衣服ハ身體ヲ覆フモノニシテ、絹布又ハ木綿等ヲ用ヒテ製ス。衣服ハ清潔ニシテ、汚穢ナラザルモノヲ用フベク、徒ニ華美ヲ事トスベカラズ。

○雞の話

或時、二羽の雞鬪をあり、一羽ハ敗れ

て、家の中よ逃れ勝を得たる一羽ハ凱歌を擧げて、戸外に誇まり、時よ鷺飛び來りて、之を捕へたりと云ふ。故よ勝を得たりと云ふ、誇るべしと云ふ。

○上野公園

上野公園ハ東京ノ東北隅ニ在リ。巨木高ク聳エ、櫻樹其間ニ交リ、空氣清爽ニシテ、四時ノ遊觀甚佳ナリ。又博物館、動物園ア

ルヲ以テ、遊客ノ園内ニ逍遙スルモノ、常ニ絶エズ。

○早起

朝早く起くるハ、家の榮ゆる驗ふして、遅くおくるは、家世衰ふる始ありとぞ。實ニ朝寢をるものハ、學問を妨げ、家事を取る能はざれば、次第ニ貧窮ニ陥りて、家を亡ふに至るハ、疑ふべくもあらず。

○江戸城

江戸城ハ、徳川氏ノ幕府ヲ置カレシ所ニシテ、二百六十餘年ノ間、天下ノ政事ヲ行ヒタル所ナレドモ、今ハ之ヲ改築シテ、皇城トナシタリ。サレド、石垣溝渠ノ類ハ、猶江戸城ノ形ヲ存スルモノアリ。

○學バザル可カラズ

人ハ、生レナガラニシテ、智識アルモノニア



ラズ。故ニ幼稚ナルトキヨリ、學問ヲ為シテ  
才智ヲ磨キ、以テ身ヲ立テ家ヲ興スコトヲ  
忘ル可カラズ。

○輕氣球

輕氣球ハ、護謨ヲ塗リタル布帛ノ大囊ヲ製  
シ、之ニ水素ト云ヘル最輕キ瓦斯ヲ充テ、其  
下ニ籃ヲ繫ギ、人之ニ乘リテ、高ク空中ニ昇  
ルモノナリ。

○旅行

一度も遊バざる土地ハ旅行して、其土人  
ノ就キ、其處の風土人情などを問ふハ、智  
識を磨くの助けとあるべし。又麗キ山  
水ハ逢ふときハ心自爽ニありて、其樂多  
クせん。

○運動

運動ハ食物ノ消化ヲ助ケ、筋肉ヲ強固ナラ

シムルノ益アリ。運動ニハ種々ノ方法アリト雖、歩行ハ簡便ナル全身運動ニシテ、之ヲ野外ニ於テ為スハ最宜シ。

○茶

茶ハ吾々が日々ニ飲ムモノニテ、貴賤ノ別ナク、茶ノ嫌ヒナ人ハアリマセヌ。此ノ茶ヲ飲ムコトハ、日本ノ人バカリデナク、支那ノ人モ之ヲ喜ミマス。又西洋ノ茶ノ無キ國ニテハ、かひートテ茶ニ類シタルモノヲ飲ミマス。

○紀元節

紀元節ハ、神武天皇ガ位ニ即カレタル日デアリマス。昔日本ニ惡人ナドガ多ク住ミマシテ、國中穩デ無カリシトキ、今ノ天子様ノ先祖神武天皇ガ、惡人ドモヲ亡シテ、二月十一日ニ、天子トナラレマシタ。ソレユヘ此ノ

日ヲバ紀元節ト云フテイハフノデアリマ  
ス。

類題

- 粟鼠
- 算術
- 筍
- 袴
- 身體ノ清潔
- 杉
- 櫨
- 絹布
- 節儉
- 多く語る可からず

- 人を誹る可からず。
- 孔雀ノ真似ヲシタル鳥。
- 人ふ交るよ信義を以てまべし。

尋常  
小學作文卷四 終

明治二十二年六月九日印刷  
同 年六月十日 出版

定價金拾三錢

版權 所有

著者

西村正三郎

東京下谷區西町二十四番地

著者

杉山文悟

東京下谷區西黑門町廿三番地寄留

發行者

辻 敬之

東京下谷區練堀町十四番地

印刷者

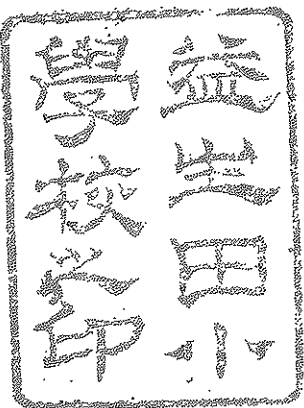
沼尻為作

東京下谷區徒士町壹丁目七番地

發兌

普 及 舍

東京下谷區練堀町十四番地



明治 22

92